

開催時期

8月15日前後

会場

小浜海岸



左義長は夏の夜空を照らし、お盆に帰ってきた霊を迷わず送り返す、8月16日夜の行事でした。太さ20～30cm、高さ13mの孟宗竹に藁を巻き付けた梵天（神に捧げる供物を表わす、あるいは神が降臨する場所を示す）を施し、砂浜に4、5m間隔で20本を一行に並べて火を点け、「ホーイ、ホイ」と声をかけながら霊を送ります。

この行事は平安時代に宮中など正月に行われていたもので、その後庶民に広まりました。江戸時代には小浜からの江戸向け廻米などが時化に遭い、遭難者が続出したことから、小浜ではその霊を慰めるとともに暗い海に帰る霊が迷わないように、盆送りとなりました。

行事は、昭和40年（1965）頃にいったん途絶えます。その後、昭和50年（1975）に復活するものの、昭和59年（1984）を最後に、ふたたび途絶えてしまいました。

平成23年（2011）3月に発生した東日本大震災で小浜集落は大きな被害を受けましたが、一致団結して震災から立ち上がろうとして、左義長の復活を決定。平成28年（2016）8月に小浜町の住民は岩間町の住民と協力して小浜海岸で開催し、鎮魂の祈りを捧げました。

会場

